

令和6年2月29日

福岡県教育委員会教育長 殿

所属校名 宗像市立河東中学校
職・氏名 教諭 賀門 雅也
指導者名 篠田 穰
横光 雄介

研修最終報告書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

- 1 研修種別 C 福岡教育大学附属福岡中学校研修員
2 研修場所及び所在地 福岡教育大学附属福岡中学校
〒810-0061 福岡市中央区西公園12番1号
電話番号 (092)771-8381
FAX番号 (092)732-1147

3 研究主題及び副題

より良い地域の在り方を追究する生徒を育成する中学校社会科学学習指導
～3つの学習過程にコンセプトマップを用いた振り返り活動を位置付けて～

4 研究内容の概要

(1) 研究の目標

中学校社会科において、地域の在り方を追究する生徒を育てるために、コンセプトマップを用いた振り返り活動を学習過程に位置付けた学習指導の在り方を究明する。

(2) 研究の仮説

中学校社会科学学習指導において、学習過程の中で、コンセプトマップを書いていく中で把握した課題への自己の考えを書き(振り返り①)、学習を積み上げる中で考えを再度検証し(振り返り②)、積み上げてきた学びをもとに解決策を構想する(振り返り③)という手だてを講じれば、より良い地域の在り方を多面的・多角的に追究する生徒を育成することができるであろう。

(3) 研究の内容

より良い地域の在り方を追究する生徒を育成するための、3つの学習過程にコンセプトマップを用いた振り返り活動を位置付けることの有効性

(4) 主題及び副主題の意味

① 主題について

「地域」とは何らかの意味のある指標によって意図的に区分した一定の空間的な広がりのことである。地域は主に、実質地域と形式地域の2つに分けられる。本研究においては、自然環境と社会環境が相互に作用して生み出される地域的特色を捉えやすく、より良い地域の在り方について追究しやすいと考えたため、日本の7地方区分を形式地域として実践を行っていく。

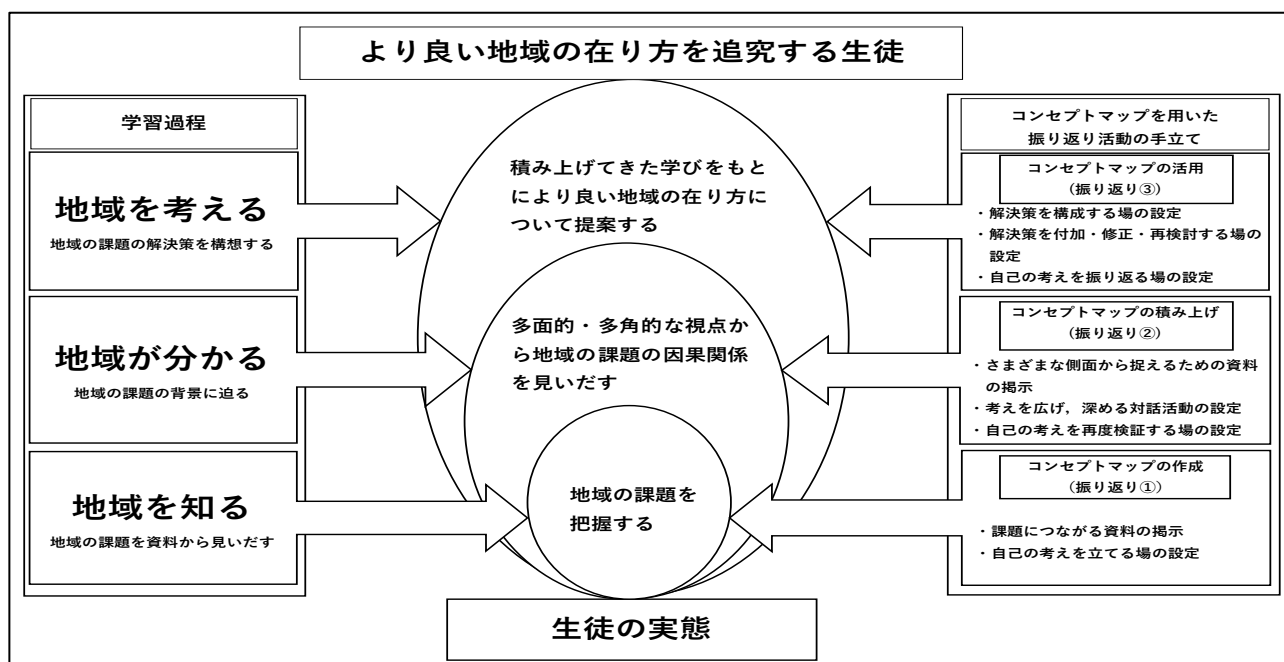
「より良い地域の在り方を追究する生徒」とは、地域が直面している課題に対して地理的な見方・考え方を働かせて、その課題と地理的事象の因果関係を多面的・多角的に追究することを通して、地域のより良い在り方を提案できる生徒である。地域の課題は、地域という空間的な広がりの中で、複数の地理的事象の関わりによって生ずる特有の性質から生まれるものである。そのため、より良い地域の在り方を追究していくためには、社会的事象に対して地理的な見方・考え方を働かせながらさまざまな知識を習得し、活用していく必要がある。本研究では、「知る」「分かる」「考える」の3段階において、地理的な見方・考え方を働かせながら事実的知識や概念的知識を習得し、それらを活用

して課題に対する解決策を構想することが、地域のより良い在り方を追究する生徒を育成することにつながると考え、本主題を設定した。

② 副主題について

「3つの学習過程にコンセプトマップを用いた振り返り活動を位置付けて」とは、コンセプトマップで積み上げてきた知識や見いだしてきた事象の因果関係などをもとに、地域の課題に対する自己の考えを構成するための振り返り活動を学習過程ごとに行うことである。岩田(2001)は、「社会科学習で自分の学習をメタ認知させ、その結果を表現させれば、探究能力を育てることができる」としている。そのため、コンセプトマップで知識を積み上げたり、事象間を関連付けたりして、その成果を表現するための振り返り活動を学習過程ごとに位置付けることは有効であると考え。まず「地域を知る」段階では、既知の内容や資料をもとにコンセプトマップを作成していくことで、地域の課題を把握することができる。その際に振り返り活動①を設定し、初めの段階における自己の考えを立てさせる。次に「地域が分かる」段階では、対象地域に関する資料に基づいて事実に・概念的知識をコンセプトマップに書き加えていき、対話活動を行っていく。それにより、地域の課題と地理的事象の因果関係を見いだすことができる。その上で振り返り活動②において、考えを再度検証させることで、より多面的・多角的な視点から地域の在り方について考えることができる。そして、「地域を考える」段階では、積み上げてきた学びをもとに解決策の構想をさせる。その後、解決策を付加・修正・再検討する活動を行うことで、さらに考えを広げたり、深めたりすることができる。そして、振り返り活動③を設定することで、学習過程を通じて深まった考えに基づき、地域のより良い在り方を提案することができる。以上のように、学習過程の中でコンセプトマップを使って学びを積み上げながら振り返り活動を設定していくことで、より良い地域の在り方を追究する生徒の育成につながると考える。

(5) 研究構想図



(6) 検証の方法

- 抽出生徒の様相観察、学習過程の中でのコンセプトマップの変容の分析、単元の課題に対する学習過程における振り返りシートの記述内容の分析

(7) 実践と考察

- ① 題材「中部地方」
- ② ねらい

学習課題を設定し、中部地方の地域的特色を多面的・多角的に捉える学習活動を通して、北陸地域の地場産業活性化に向けたより良い在り方を考えさせることが主なねらいである。

③ 授業の実際

ア 「地域を知る」の段階

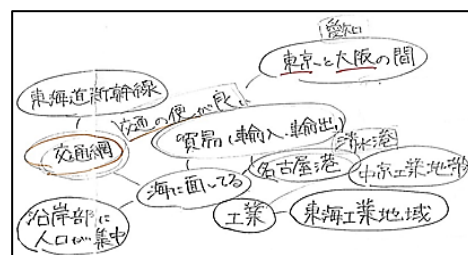
この段階のねらいは、中部地方を東海地域・中央高地・北陸地域に区分した上で、それぞれの大きな特色を自然環境面や交通面、産業面に関する主題図や統計資料から調べさせ、中部地方のうち、北陸地域における産業面の課題に気づかせることと、それにもとづいて立てた単元課題に対する、最初の段階における自己の考えを形成させることである。

まず、中部地方を自然環境と交通の側面から捉えさせた。ここでは、地形図や、交通網に関する主題図、北陸新幹線の延伸に関する記事を提示し、地域を大観させた。さらに、中部地方の各地域における産業の現状について、統計資料を用いて調査させた。すると生徒は、農工業出荷額や観光客数などの資料から、東海地域が産業面において中央高地や北陸地域より優位に立っていることに気づくことができた。さらに、自然環境や交通面に関する地形図や主題図を、農工業出荷額などに関連付けて考察させたところ、北陸地域は東海地域と同じ沿岸部に位置しているものの、東海地域や中央高地に比べて農工業出荷額が低いことに気づくことができた。また、翌年北陸新幹線が延伸され、県内に初めて新幹線が通る予定の福井県に焦点をあてて調べさせた。すると、福井県は地場産業を特色として持っているものの、工業製品出荷額が北陸地域の中で最も低いことや、観光客数が中部地方で最も少ないことに気づかせることができた。最後に、学習課題を「北陸地域のうち、福井県の地場産業をより活性化させるためのプランを立て、県庁に提案しよう。」とした上で、振り返り活動①を設定し、学習課題に対する自己の考えを立てさせた。この段階では、福井県の地理的優位性を加味できている考えは少なかった。

イ 「地域が分かる」の段階

この段階のねらいは、中部地方各地域における産業の特色と地理的事象との因果関係を見いださせることや、地場産業活性化プランを構想するために、追究過程の学びをもとに、自己の考えを再度検証させることである。

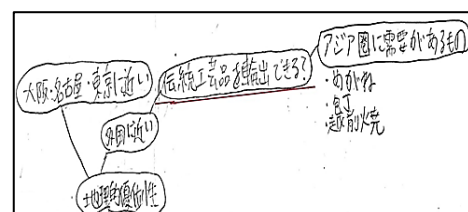
まず、東海地域や中央高地の産業が発展している要因について明らかにさせた。ここでは地図や、自然環境・交通に関する資料をもとに追究させ、コンセプトマップに書き加えさせた。すると生徒は【資料1】のように、2つの大都市圏の間に位置し、交通網が発展しているため、大都市への移出が可能であることや、太平洋沿岸部であり、輸出入がさかんであることに気づくことができた。中央高地についても、交通網が張り巡らされていることによる移出の利便性や、地方的特殊性を活かした農業がさかんであることなどに気づくことができた。次に、北陸地域において地場産業が根付いた背景を調査させた。さらに、地域のより良い在り方を追究するために、効果的なプランを見いださせた。ここでは、福井県の地理的優位性を資料や地図から調べさせたり、白地図に書き込ませたりしながら追究させ、コンセプトマップに書き加えさせた。その上で【資料2】を掲示し、福井県の優位性について問うたところ、福井県が日本海側の中心に位置し、東アジアやロシアとの国際的なつながりに優位性をもっていることに気づいた。そこで、コンセプトマップで積み上げてきた学習内容を組み合わせながら、地場産業活性化プランを見いださせた。すると積み上げてきて学びをもとに、【資料3】のようにプランを見いだすことができた。その後、振り返り活動②を設定し、単元課題に対する自分の考えを再度検証させた。この段階では、積み上げてきた学習内容を踏まえて、交通面や地理的位置、海外との相互依存といった視点からプランを立てられる生徒が多くなった。



【資料1】東海地域の交通や位置に着目した記述



【資料2】環日本海・東アジア諸国図



【資料3】プランのために見いだした記述

ウ 「地域を考える」の段階

この段階のねらいは、学習課題解決に向けたプランの検討活動や、GT に提案し、受けたアドバイスをもとに再度プランを練り直す活動を通じて、構想した活性化プランを多面的・多角的な視点から考えさせることで、実効性・実現可能性を踏まえたプランを立案させることである。

まず、前時までの学習で見いだしたプランをもとにグループで話し合い、立案書を作成させた。ここでは、コンセプトマップに書き加えてきた地理的優位性をもとに立てたプランに基づき、話し合い活動を行わせ、立案書を練り上げさせた。次に、福井県庁の担当者にオンラインで GT として参加してもらい、グループが作成した立案書について説明させ、アドバイスをもらった上で、立案書の練り直しを行わせた。すると生徒は、追究してきた地理的な優位性を根拠にプランの説明を行い、GT から受けたアドバイスを解決するためにさらに話し合いを重ね、プランの再検討をすることができた。生徒は、これまで積み上げた学習と、GT からのアドバイスを受け、より一層実効性や実現可能性を加味しながら、地域のより良い在り方に向けたプランの立案をすることができた。

④ 結果と考察

視点 1

「地域を知る」段階において、中部地方を東海地域、中央高地、北陸地域に分けて、自然環境面、交通面、産業面の資料を比較・追究させ、振り返り活動①を行うことは、中部地方の地理的事象から地域の課題を把握し、自己の考えを形成させる上で有効であったか。

ここでは、中部地方の地理的事象から地域の課題を把握し、自己の考えを形成する生徒の姿を、中部地方の自然環境や交通、産業面に関する主題図や統計を用いた考察を通して、地域が直面している課題に気づき、その課題の解決に向けたプランを、これまでの地理的分野の学習をもとに立てる姿と捉える。

抽出生 A は、【資料 4】破線囲み部のように、福井県の課題を見いだした。そして、振り返り活動①において、【資料 4】

福井県は、地場産業が盛んで、世界的にも有名なのに、農工業出荷額が低い、観光客が少ないという課題がある。福井の地場産業を活性化させるために、福井の地場産業を広める必要があると考える。そのために、地場産業の様子を実際に見て学べる見学施設を作ることで、福井の地場産業の魅力をしれて、興味を持つ人が増えると思う。

【資料 4】抽出生 A の振り返り①

下線部のように地場産業活性化に向けた自分の考えを立てることができた。抽出生 A にとって、中部地方を 3 つの地域に分けて比較させつつ、複数の側面から関連付けて考察させたことは、有効であったと考えられる。しかし、地場産業の魅力発信に着目した考えを述べているものの、まだ具体的なプランを見いだすことができていない。抽出生 B は、北陸地域の農工業出荷額や観光客数の数値が低いという事実しか捉えることができず、自然環境や交通面と関連付けて考え、北陸地域の課題把握に至ることができなかった。そのため、振り返り活動①では、地域の課題に言及せず、ただ福井県のメガネを全国に売るという記述のみにとどまっている。

以上の結果から、「地域を知る」段階において、中部地方を 3 つの地域に分けて自然環境、交通、産業面の資料を比較させ、振り返り活動①を行うことは、地域の課題を把握し、より良い地域の在り方に対して自己の考えを立てる上で有効であったと考える。しかし、地図や資料を関連付けて考察することができず、地域の課題を把握することが十分にできなかった生徒が見受けられた。ただ資料を提示するだけでなく、教師が発問を重ね、着目する視点を明確にさせたり、個人追究を十分に行った上で、グループ活動を設定したりするなどの手だての工夫が必要である。

視点 2

「地域が分かる」段階において、中部地方を 3 つの地域に分け、コンセプトマップに地域的特色を書き加えたり、追究過程を比較したりする活動を行い、振り返り活動②を行うことは、中部地方の産業面の特徴と地理的事象の因果関係を見いださせたり、地場産業活性化に活かせる要素を考え、自己の考えを再度検証させたりする上で有効であったか。

ここでは、中部地方の産業面の特徴と地理的事象の因果関係を見いだしたり、地場産業活性化に活かせる要素を考え、自己の考えを再度検証したりする生徒の姿を、中部地方各地域の産業の特徴とその背景を多面的・多角的な視点で捉え、福井県の地場産業活性化に活かせる要素の足がかりとして、

より地理的な優位性を活かしたプランを見いだす姿と捉える。

抽出生Aは、中部地方各地域の産業の特色とその背景について調査を進めた。東海地域の追究を例にとると、東京と大阪の2大都市の中間に位置することや、沿岸部であることによる海外とのつながりなどに、産業発展と地理的事象の因果関係を見いだした。次に、福井県の地場産業活性化に活かせる要素について追究し、自己の考えを再度検証していった。抽出生Aは、これまでの追究活動で見いだした地理的位置に着目し、【資料5】破線囲み部のように、交通網が三大都市圏とつながっていることを優位性と捉え、マップへ書き加えていった。また環日本海・東アジア諸国図から、日本海側の中心に位置し、東北アジアとのつながりという点で、東海地域よりも優位であると捉え、【資料5】下線部のように、海外との相互依存に関する要素を書き加えた。その結果、振り返り活動②では、【資料6】下線部に見られるように、国内への地場産業の周知という考えから、海外との関わりへと視点を転換させており、地理的な見方が広がったことがうかがえる。抽出生Bは、「地域が分かる」段階での振り返り活動において記述したプラン自体は、振り返り①の記述と大きく変化してはいないものの、【資料7】下線部を見ると、福井県の地理的優位性を認識していることが分かる。ここから、自己の考えの根拠を追究過程で見だし、強化できたことが分かる。つまり、中部地方各地域の産業の特色とその背景を追究する学習過程が、抽出性Bにとって有効であったと考えられる。ただしこれらの追究は、グループの生徒からの助言の力も大きく働いており、自ら問いをもって獲得した知識ではないものもある。そのため、新たなプランを立てるまでには至らず、これまでの考えを強化するにとどまったものと考えられる。抽出生Bのような生徒に関しては、机間指導の中で積極的に関わり、意図的な資料提示や発問によって、各地域を比較させながら追究させていく必要があったと考える。

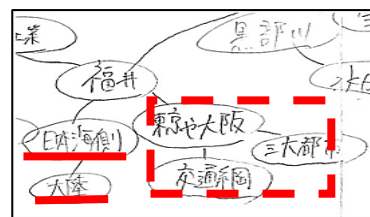
以上の結果から、「地域が分かる」段階において、コンセプトマップに中部地方3地域の産業面の特色を書き加えたり、追究過程を比較したりする活動を行い、振り返り活動②を行うことは、北陸地域の地域的特色と地理的事象の因果関係を、地場産業活性化プランに活かすことができる要素を考える基礎とし、自己の考えを再度検証させる上で有効であったといえる。一方で、東海地域や中央高地の産業の特色とその背景を、福井県の地場産業活性化プランの参考とさせていくためには、資料による追究活動のみでは不十分であった。産業の特色とその背景には、地方的特殊性はもちろん、一般的共通性があることにも気づかせるための発問や資料提示の工夫が必要である。

視点3

「地域を考える」段階で、積み上げてきたコンセプトマップをもとに福井県の地場産業活性化に向けた方策を構想し、GTとの対話および方策の再検討をさせた上で振り返り活動③を行うことは、北陸地域のより良い在り方を実効性・実現可能性を踏まえて立案させる上で有効であったか。

ここでは、北陸地域のより良い在り方を実効性・実現可能性を踏まえて立案する生徒の姿を、福井県の地理的優位性を活かした地場産業活性化プランを、GTとの対話やグループでの再検討を踏まえ、より一層具体的なプランを提案する姿と捉える。

抽出生Aは、繊維産業とアジアへの地理的優位性を組み合わせた自分のプランをグループで話し合い、【資料8】破線囲み部のように具体的な要素を書き加え、それをもとに作成した立案書をGTに提案した。その後、GTのアドバイスをもとに再度追究し、検討を重ねた。最終的に振り返り活動③において、GTから受けたアドバイスをもとに、【資料9】のようなプランにたどり着いた。また、【資料9】下線部を見ると、東海地域と比較した福井県の地理的優位性を意識していることが分かる。そ



【資料5】抽出生Aの追究

福井県の地場産業活性化プランと言う課題に対して、初めは国内でもっと福井県の地場産業を広めようという考えを持っていた。しかし、日本海側の大陸にも行きやすいという地理的利点を知り、海外にも地場産業を広め、活性化することができるのではないかと考えに変わった。注目したのは繊維工業が盛んという点で、福井県の繊維（素材）生かして現地生産で服を作り、海外に進出させ、海外向けにものを売ることによって福井の地場産業を活性化させることができると考えた。国内だけではなく、海外との関係にも見ることが福井県の地場産業を活性化させるために効果的なことだと思った。

【資料6】抽出生Aの振り返り②

福井県は、海に面しており、大阪や京都と交通網を結んでいるため、行き来がしやすく、輸入や輸送に便利になっている。また、福井県は、伝統工芸品をはじめ、メガネが有名であり、また、繊維工業が、3位で有名になっている。（1位は、大阪で2位は愛知県で3位が福井県）活性化プランでは、福井県のメガネを色々な国に輸送しようと考えているが、最近はコンタクトレンズを使用している人が多く、眼鏡の良さを知らない人が多いと思うので、もう少しメガネのことについて知ってもらい、福井県の眼鏡を広げたい。

【資料7】抽出生Bの振り返り②

して、実効性・実現可能性が見込めるプランとなっている。抽出生Aは、中部地方の各地域の学習を進める中で、産業活性化に必要な地理的事象を見いだすことができていた。その結果、実効性・実現可能性を加味したプランを提案することができたため、GT との対話やグループでの再検討を経て、より実効性・実現可能性の高いプランの立案をすることができたと考えられる。抽出生Bは、福井県の眼鏡枠を海外へ輸出するというプランを考えていたが、グループでの対話の中で、福井県の和紙と国内の地理的優位性を組み合わせるプランとなった。これは抽出性Bが、他者の考えや GT との対話、プランの再検討を通して、地域の課題と地理的事象の因果関係を深く捉えることができたためと考えられる。



【資料8】抽出生Aの追究

福井県で盛んな繊維業を海外に知らせるために、各国の民族衣装の製作。(チャイナドレス、チマチョゴリなど)→民族衣装は絹と合成繊維(ポリエステル、ナイロン)を用途によって使い分け、製造する。
 (例) 子供向けには、洗いやすい合成繊維とか
 絹は丈夫で夏涼しく、冬暖かいため、いろんな気候に適していて、長く使う事ができる。合成繊維は、絹と違い、たくさん洗うことができる丈夫な作りをしている。また、使った絹の切れ端を縫い合わせて市民用の価格が手頃な衣服も作り、高所得者だけでなく、一般の人たちの手にも届くようにする。そうして福井の繊維業の技術を広める。
 同じく、愛知県も繊維業が盛んだが、愛知県は太平洋側に位置しているため、ユーラシア大陸への輸出がしにくい。

【資料9】抽出生Aの振り返り③

以上の結果から、積み上げてきたコンセプトマップをもとに福井県の地場産業活性化に向けた方策を構想し、GT との対話および方策の再検討をさせた上で振り返り活動③を行うことで、実効性や実現可能性を踏まえた提案が多く見受けられるようになり、有効に働いたと考えられる。しかし、より実効性・実現可能性を踏まえた提案をしていくためには、追究している生徒一人ひとりが、「地域を知る」「地域が分かる」段階において、地域の課題を捉えて、それらと地理的事象の因果関係を深く追究していくことが必要不可欠であることが明確となった。

5 研究の成果と課題

- 単元課題の解決に向けて、コンセプトマップを使って追究を進めることは、自らの学びの足跡を可視化したり、書き加えてきた地理的事象の因果関係に気づかせたりすることにつながった。追究の深い側面や浅い側面が把握しやすいため、足りない部分を追究していくことにつながり、多面的・多角的な視点から地域のより良い在り方を考えさせることにつながった。
- 3つの学習過程にコンセプトマップを用いた振り返り活動を位置づけることによって、自らの学びをメタ認知させながら学習を進めることができ、探究の方向性を見いだしたり、ブラッシュアップさせていくために必要な視点を明らかにしたりすることにつながった。
- コンセプトマップは、調べたことや読み取ったことを書き加えやすいものであるが、地域の課題を把握したり、地理的事象との因果関係を探る場面で、追究を深められない生徒が見られた。課題把握や追究につながる資料の選定やその掲示方法の工夫、発問を精査して追究をファシリテートすることなどが必要であった。
- 地理的分野の学習において、「地図の活用」や、「問い」の重要性を認識した。しかし、生徒たちに問いをもたせながら、地理的な追究をさせていくための手だてが甘く、個人用端末を用いたインターネット検索による追究に頼りがちになり、地図を活用させることが課題として残った。生徒が、位置や分布、空間的相互依存作用などを地図から見いだしていくための問いの工夫や構造化について研究を進めていく必要がある。

6 研修を終えて

公民的資質の育成を究極の目標にしている社会科教育に携わる者として、いかに自分が網羅的・羅列的かつ問答中心の授業に陥っていたのか思い知らされた。そして、生徒たちが自ら課題を追究し、解決に向かっていくために、課題把握や追究につながる資料の選定やその掲示方法の工夫、発問を精査して追究をファシリテートしていくことの重要性を再認識した。また本研究を通して、「日本の諸地域」の学習に「地域の在り方」を合わせる際、地理的な課題や問いによって追究をさせていく単元構成や発問といった手だてを講じることが重要であると再認識した。公民的分野に大きく関わるであろう「地域の在り方」という内容を、なぜ地理的分野で扱うのかを考え、生徒たちが地理的な見方・考え方を働かせながら、地域について考えることができるよう、今後も究明していきたい。

備考 ○ 在籍校 宗像市立河東中学校 電話番号 (0940) 33-7700

1 単 元 「九州地方」

2 指導観

- 2023年5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行され、アフターコロナの時代に突入した。それに伴い、これまで日本経済を牽引してきた観光産業の回復が期待されている。しかし各地方では、オーバーツーリズムやリピート層の確保等の課題に直面しており、持続可能な観光開発が求められている。

本単元は、国内外の観光客の回復が期待されるものの、三大都市圏の位置する地方と比べて観光客数の少ない九州地方の新たな観光の在り方を追究することを通して、九州地方の地域的特色を多面的・多角的に捉えさせることをねらいとしている。九州地方は、東アジアに近いという地理的優位性をもち、九州新幹線や各県に位置する空港など、交通面の利便性も兼ね備えているものの、地方別平均観光客数が7地方中5位と低く、オーバーツーリズムやリピート層の確保などの課題を乗り越えながら、新たな観光を構想していくことが求められている。本単元の学習で、九州地方の地域的特色をもとに新たな観光プランを追究することは、持続可能性な、より良い地域のあり方を考えさせる上で大変意義深い。

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

3 目標

- 九州地方の地域的特色について、自然環境や産業、交通などに関する資料から読み取り、説明することができる。
- 九州地方のより良い在り方について、新たな観光プランを追究することを通して、多面的・多角的に考察し、提案することができる。
- 九州地方の地域的な課題や、その解消に向けた在り方を主体的に追究しようとしている。

4 計 画 (7時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	評価規準
一	1	1 九州地方の、観光客数や交通網の発展などについて調べ、学習課題を設定する。 単元を貫く課題 旅行会社の方に、九州地方の新たな観光プランを提案しよう。	態：九州地方の観光の現状や、交通網に関する資料を読み取ることを通して、地域の課題を主体的に追究しようとしている。
二	3	2 九州地方の地域的特色と観光との因果関係を探る。 (1) 九州地方の地域的特色を見いだす。 (2) 九州地方の地域的特色と観光とのつながりについて探る。 (3) 観光に活かせるものについて考えた上で、持続可能性を踏まえた観光プランについて話し合う。	知：九州地方の地域的特色について、資料を読み取り、説明することができる。 思：九州地方の観光プランに活かせる地理的事象について多面的・多角的に追究し、表現することができる。
三	3	3 九州地方の観光プランを検討・作成し、提案する。 (1) これまでの学習をもとに、九州地方の観光プランを検討・作成する。 (2) 検討したプランを、GTのフィードバックを踏まえて、付加・修正・再検討していく。【本時】 (3) ブラッシュアップしたプランをグループで提案し、相互評価を行う。	態：九州地方の観光プランを検討し、議論を重ねていくことを通して、地域のより良い在り方を主体的に追究しようとしている。

5 本 時 令和6年2月1日(木) 第4校時 計画 第三次の2 2年1組教室にて

(1) 主 眼

○ 検討してきた九州地方の観光プランを、GTからのフィードバックをもとに、付加・修正・再検討することを通して、九州地方の地域的特色や相互依存関係について捉えることができる。

(2) 準 備

①生徒が作成した九州地方の観光プランの例 ②九州地方の拡大地図 ③GTによる九州地方の観光プランに対する助言 ④GTが評価した立案書 ⑤白地図 ⑥九州観光プラン再立案書

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて (○), 研究に關わる手だて (◎), 評価 (◇)	形態	配時
1 前時までどのような視点から観光プランを検討したのかを振り返り、実現可能性や実効性に関する問題意識をもつ。 ・位置・自然環境・交通・経済面の地域的特色 ・他地方や海外との相互依存 ・実効性や実現可能性の必要性	① ②	○ 観光プランをブラッシュアップする必要性に気づかせるために、各グループが活用した地域的特色や他地域との関わりは、本当に実効性や実現可能性をもつプランにつながっているのかを問う。	一斉	5
めあて 旅行会社の方に相談しながら、より良い観光プランを立案しよう。				
2 検討してきた観光プランについて、GTからフィードバックを受ける。 ・九州地方の地域的特色や空間的相互依存作用を活かした観光プラン ・実効性や実現可能性を踏まえた意見やアドバイス ・経済面や交通面などを背景とした実効性・実現可能性の難しさ	③ ④	○ 検討したプランにおける付加・修正・再検討すべき点に気づかせるために、実際に観光に携わっている方から、実効性や実現可能性の視点からフィードバックを受ける場を設定する。	全体 ↓ 小集団	15
3 GTから受けたフィードバックをもとに、より良い観光プランに向けて話し合う。 ・観光プランと地理的事象の関わりにおける、解消すべき課題 ・プランに取り入れるべき地域的特色 ・GTのフィードバックをもとにした、実効性や実現可能性を高めた観光プラン	⑤ ⑥	◎ 解消すべき課題を、より具体的に捉えさせるために、GTが適宜助言を与えられる場を設定し、活用を促す。 ◎ GTから受けたフィードバックをどのようにプランに盛り込むか考えさせるために、話し合いの場を設定し、フィードバックをもとに助言を行う。 【解決策を付加・修正・再検討する場の設定】	小集団	20
4 より良い九州地方の観光プランについて、再立案する。 ・九州地方の地域的特色や空間的相互依存作用を活かし、実効性や実現可能性も高めた、九州地方の新たな観光プラン		○ 再立案した観光プランの改善点を整理させるために、修正した観光プランの、実効性や実現可能性が高まったと言える根拠はどこかを問う。 ◇ 九州地方の観光プランを、GTのフィードバックやグループでの話し合いなどをもとに、地域的特色を活かしつつ、実効性や実現可能性の高いものにする事ができているか。 〈観光プラン再立案書分析・様相観察〉	小集団 ↓ 一斉	10